

目的

県内のアユ漁の状況を把握するために、解禁日の釣り人数と由来別の釣獲尾数を調査した。

材料および方法

調査場所 大河川4河川，中小河川3河川で調査を実施した。

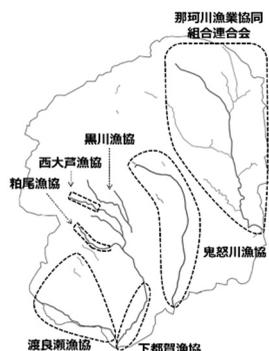


図1 調査した6漁協及び1連合会

大河川は、思川（下都賀漁協管内），那珂川（那珂川漁業協同組合連合会管内のうち6月1日解禁の漁場），鬼怒川（鬼怒川漁協管内のうち6月3日解禁の漁場），渡良瀬川（渡良瀬漁協管内），中小河川は黒川（黒川漁協管内），大芦川（西大芦漁協管内），思川（粕尾漁協管内）である（図1）。

調査方法 平成30年のアユ漁解禁日にクリールセンサスを実施した。天然遡上アユと放流アユそれぞれの釣獲尾数を推定するために、側線上方横列鱗数と下顎側線孔数を指標とした釣獲魚の由来判別を実施した。方法の詳細については、既報¹⁾を参照されたい。

結果および考察

解禁日の釣り人数は7河川の合計が3,793人で、前年比112%に増加した（表1）。天然遡上アユの釣獲は那珂川，思川，渡良瀬川で確認されたが，3河川の合計は4,219尾と前年比68%に減少した（表2）。ただし，那珂川では前日からの降雨で濁りが入り，釣獲率が低下しやすい状況であった。また，渡良瀬川では前年は1尾も確認されなかった天然遡上アユが総釣獲尾数の15%を占めていた。これらから，天然遡上アユの遡上は比較的良好であったと考えられる。放流アユの釣獲尾数は57,741尾で前年比128%へと増加した（表3）。これは，主に鬼怒川での釣獲が良好であったことによる。鬼怒川の放流尾数はむしろ減少しているの

流から解禁日までの歩留まりが良好で，冷水病の発生もなく解禁日を迎えられたことが好釣果に繋がったと考えられる。

表1 アユ漁解禁日の釣り人数
（括弧内はドブ・毛ばり釣り）

河川	調査年		増減	
	2017	2018		
大河川	思川（下都賀）	221(4)	182(2)	82%
	那珂川	893(35)	966(35)	108%
	鬼怒川	685(59)	1,111(60)	162%
	渡良瀬川	253(3)	210(2)	83%
中小河川	黒川	422(2)	430(2)	102%
	大芦川	309	258	83%
	思川（粕尾）	595	636	107%
計	3,378(103)	3,793(101)	112%	

表2 天然遡上アユの釣獲尾数

河川	調査年		増減	
	2017	2018		
大河川	思川（下都賀）	40	8	20%
	那珂川	6,124	3,836	63%
	鬼怒川	0	0	—
	渡良瀬川	0	375	—
中小河川	黒川	0	0	—
	大芦川	0	0	—
	思川（粕尾）	0	0	—
計	6,164	4,219	68%	

表3 放流アユの釣獲尾数

河川	調査年		増減	
	2017	2018		
大河川	思川（下都賀）	468	685	146%
	那珂川	1,203	721	60%
	鬼怒川	9,420	18,974	201%
	渡良瀬川	2,021	2,174	108%
中小河川	黒川	9,328	9,069	97%
	大芦川	8,555	8,000	94%
	思川（粕尾）	12,042	16,100	134%
計	45,054	57,741	128%	

引用文献

- 1) 高木優也，酒井忠幸．解禁日における放流アユの回収率．栃木水試研報 2018;61:40-41
(指導環境室)